



蜂の巣？について

本校では園芸入門の授業があり、温室でイチゴを栽培しました。イチゴの受粉の際、人工授粉より蜂による受粉の方が実りが良いということで、蜂を巣箱ごと借りていました。

5月14日に南棟の教室から、ある先生が温室の向こうの樹木に大きな蜂の巣のようなものがあるのを発見しました。早速、事務室が対応し、ミツバチ程度の大きさの蜂であることを確認し業者に駆除依頼をしました。



業者の方に見ていただいて分かったことは巣ではなく蜂が群がっているということです。ラグビーボール大の大きさに集まっているので、殺虫剤をまくと蜂が逃げ出し、黒い大きな塊になってどこに

いっかが分からないということなので、一旦静観することとしました。

蜂を貸していただいた方に連絡をすると、「それは分蜂(ぶんぼう)といって、次の世代の女王蜂が生まれてそこに他の蜂が集まっているので、巣箱を設置するとそこに移動して来ると思う。今から巣箱を持って行きます。」ということでした。お見えになって、群がっている蜂を網ですくい女王蜂ごと捕まえて、えさ入りの巣箱に入れてくださいました。

翌日、関係の方でどうなっているかと見に行ってみると、木にたくさん群がっていた蜂はすべていなくなり跡形もありません。用意した巣箱に全ての蜂が移動していました。女王蜂を追って何百という蜂がその後につき従ったようです。

蜂を使った受粉の話、蜂が群がる分蜂、総合学科にいると面白い経験をします。

生徒インタビュー-1

前回の「緑園の授業1」で「介護福祉基礎」の授業の様子をお伝えしました。その後、5月19日(月)の昼休みに3年次生の受講生の一人のAさんから話を聞くことができました。

一福祉の科目を勉強しようと思ったのはなぜですか？

高校を選ぶ時点で、どのようなことを勉強するか考え、福祉について学びたいということで受験しました。1年次で睦愛園でボランティアを経験し、2年次で社会福祉基礎とコミュニケーション技術を勉強し、福祉分野の関心が高まりました。

一福祉について学んで得たものは何ですか？

高齢者の方のを知ることができました。バイトで高齢者の方と接することがあるのですが、以前はよく分からないままじれっとなることもあったのですが、今は見守って待つことができるようになりました。高齢者の方の大変さが知識と経験で結びついた感じがします。



もう一つは、私は中学校までは人前で話すのが苦手でした。でも、福祉の授業では自分の考えをしっかりと述べたり説明することを要求されます。その積み重ねで緊張した中で意見を述べるできるようになりました。また、MIRAIの授業での発表の経験が人前で話すことができるようになったきっかけかなと思います。

一将来はどうしたいと考えていますか？

福祉関係に進みたいと思っています。上の学校に進むよりも、直ちに福祉関係で就職してみたい気持ちがあり

ます。とにかく実務経験を積んでその後で学校に行くのもあるのではないかと考えています。

一お年寄と接していきたいという気持ちを大事にしてください。進み方はいろいろあると思います。先生や保護者の方とよく相談してより良い決断をしてください。

※中学校までは人前で話すのは苦手だったと話していたAさん。私の質問に丁寧に分かりやすく答えてくれました。自分の思いをきちんと伝えることはコミュニケーションの基本、もちろん福祉職の基本。水高先生の生徒に求める水準は社会人基準だと思います。しっかり鍛えていただいているとうれしくなりました。

緑園の授業2 【簿記】

5月13日(火)の4校時に、簿記の林先生の授業に参加しました。この授業は簿記検定3級・2級の資格取得を目指すもので、極めて実践的な内容です。この日の授業の受講者は17名でした。

当日は試験に向かって振り返りの時間となっていました。最初の20分間で小テストを実施します。内容は残高試算表・損益計算書・貸借対照表です。私も試験をいただきましたが、恥ずかしながら何をどうしてよいかわかりませんでした。しばらくすると、電卓をたたく音がそこここから聞こえてきて、テストを仕上げています。終わった生徒から提出をしていきます。かなりの集中力を求められると感じました。

試験前の振り返りということで、林先生が用意した8枚のプリントを仕上げていくよう指示が出されました。正解のプリントも準備されており、必要なら直ぐに受け取ることができるようになっています。

それぞれの生徒が熱心に取り組み始めました。生徒の中から、わからない部分の質問が出ると、林先生は「小口現金出納帳がわからない人は後ろに集まって」と声かけをしました。すると4名の生徒が集まってきて、ポイントの説明を先生を始め、ほとんど個別の指導となります。

それが終了すると、また生徒から「商品有高帳がわからない」と声上がり、さっきと同様に林先生が声をかけると6名の生徒が集まってきます。生徒はわからないまま済ます気はありません。先生も必ず分かることを確信しているのでしょう。説明が終わって「どう？」の問いに「全然、わかんない」と言われても、生徒と一緒に笑いながら肩をすくめておどけて見せます。「よしもう一回説明するよ」と説明再開。今度は生徒も確認しながら学んでおり理解ができたようで、「わかったあ」と喜んでいます。

生徒が生徒に教えているペアもあり、わからないまま済ませない姿勢が教室に根付いていました。先生は生徒に「最初の試験は平均点95点かな。今までもそうだったからね。年間を通じて難しくなっても75点を下ったことはない。しっかり勉強するんだよ。」

あきらめなければ。黙々とひたむきに取り組む生徒、きめ細やかに丁寧にそして朗らかに教える先生、素晴らしい授業風景を見させてもらいました。



校長 遠藤 誠